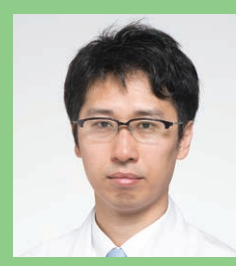


大腸内視鏡専用検査食 (クリアスルーNB3食セット増量タイプ) 前処置使用経験



NTT東日本関東病院
消化内科部長
大圃 研 先生



NTT東日本関東病院
消化内科
港 洋平 先生



NTT東日本関東病院
消化内科
木本 義明 先生

背景と目的

大腸内視鏡検査(以下CS)において、前処置は効率的かつ精度の高い検査を行うために重要である。その前処置の1つとして、検査前日の食事があげられる。受診者は検査前日の食事内容について消化に良い食事の指導を受けるが、受診者自身が配慮するのは困難である。そのため、前処置不十分となり当日の排便状況が良好な状態にならない場合には、下剤の追加摂取が必要となったり、検査時間の延長を経験したりする。近年は検査食を併用した腸管洗浄効果の有用性も報告されており、2014年に当院でも報告した。一方、検査食については味や量などの満足度に対する課題が残り、継続して検査を受けていただくためには、質だけではなく満足度の高い前処置が求められている。今回、緩下剤を補助するソルビトールが配合され、おかずの量を1.5倍に増量した大腸内視鏡検査食「クリアスルーNB3食セット増量タイプ」を検査前日の食事として前処置に利用し、腸管内洗浄度の評価、容認度について検討した。

対象

2019年8月から10月までに当院でCSを受け、増量タイプの検査食の有用性検討に同意が得られた受診者50名を対象とした(A群)。重度の便秘例、糖尿病・炎症性腸疾患、腹部手術歴(虫垂炎以外)の既往例は除外した。2014年に同様の条件で取得した通常検査食群50名(B群)、常食群50名(C群)も比較対象として用いた。

方法

同意が得られたA群に大腸内視鏡専用検査食(クリアスルーNB3食セット増量タイプ)を検査前日に摂取させた。B群は通常検査食(クリアスルーJB3食セット)、C群は普通食を摂取させた(図1)。また前処置としての投薬は、検査前日にピコスルファートナトリウム水和物内用液(10mL)、検査当日に腸管洗浄剤モビプレップ®を用法・容量に準じて処方した。評価項目として、腸管内洗浄度(残渣の評価)を盲腸、上行結腸、横行結腸、下行結腸、S状結腸、直腸の各部位について5段階で評価した(評価方法の詳細は表1)。また、受診者に対して前日の食事に関するアンケートを行い、検査食群についてはその食事としての容認度についても評価した。

図1 検査食のメニュー内容

	朝食	昼食	間食	夕食
A群 (増量検査食) 983kcal	鶏とたまごの雑炊	鮭がゆ 肉じゃが		ビーフシチュー クラッカー
B群 (通常検査食) 725kcal	鶏とたまごの雑炊	たまごがゆ じゃがいもの そぼろあんかけ	おろしりんご	ビーフシチュー クラッカー

表1 大腸内視鏡検査時の残渣の評価方法

検査施行医が、「盲腸」「上行結腸」「横行結腸」「下行結腸」「S状結腸」「直腸」の6部位を以下の判定基準で5段階で評価

A (5点)	洗浄液は透明で残渣なし	
B (4点)	わずかに残渣あるが、観察に全く支障なし	
C (3点)	残渣あり、回盲部まで観察到達は可能	
D (2点)	残渣便あり、避けて何とか観察	
E (1点)	観察不可能	

6部位ごと(各5点満点)

結果と考察

受診者背景はA群が男性36名、女性14名(平均年齢54.4歳)、B群が男性36名、女性14名(平均年齢56.4歳)、C群が男性38名、女性12名(平均年齢58.6歳)であった。腸管内洗浄度の評価結果を部位ごとに示した(表2)。すべての部位でA群、B群、C群ともに平均4点以上の評価結果であった。しかしながら、検査食群のA群B群とC群の間ではすべての部位、総合で統計的な有意差($p < 0.05$)があり、検査食群であるA群B群の方が高い洗浄度の評価であった。また、総合評価点数全体の分布を見ると(図2)、検査食群のA群B群とC群の間に有意差($p < 0.001$)があることが分かる。C群では明らかに個人差が大きく、中には十分に洗浄できていない受診者もいた。このことより、検査食を用いることで腸管内洗浄度が向上し、個人差も小さくなることが示唆された。これは、検査にかかる一人当たりの時間をある程度予測でき、日々一定数の検査を施行できる可能性があると言える。検査食の満足度について、検査食群であるA群、B群に前日の食事に関するアンケートを行った結果を示した(図3)。前回課題であった味・量ともにA群で高い結果となり、満足度の向上につながった。さらに容認度について、A群で2回以上の大腸内視鏡検査を経験している受診者に次回検査時の検査食利用の希望をきいてみると、約8割が次回も検査食の利用を希望した(図4)。

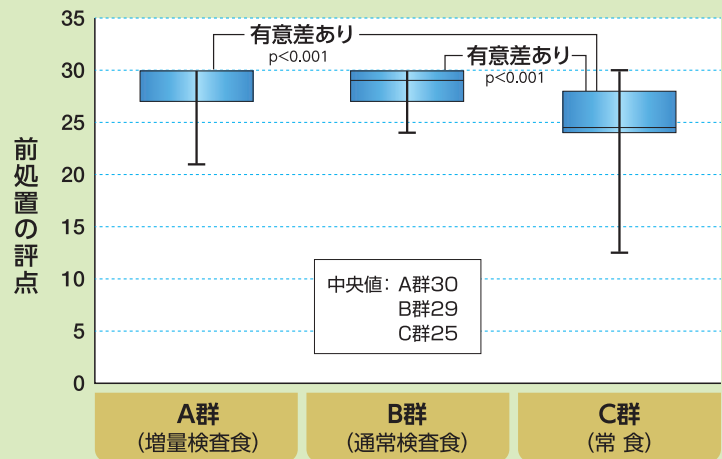
表2 腸管内洗浄度の評価結果

群	A群 増量検査食	B群 通常検査食	C群 常食
直腸	4.76 ^a	4.78 ^a	4.38 ^b
S状結腸	4.72 ^a	4.78 ^a	4.40 ^b
下行結腸	4.76 ^a	4.80 ^a	4.30 ^b
横行結腸	4.72 ^a	4.76 ^a	4.26 ^b
上行結腸	4.60 ^a	4.46 ^a	4.00 ^b
盲腸	4.62 ^a	4.40 ^a	4.00 ^b
総合	28.18 ^a	27.98 ^a	25.34 ^a

ab:異なるアルファベットの場合有意差あり。(p<0.05)

Kruskal-Wallis検定
Mann-WhitneyのU検定

図2 洗浄の状態(総合点)



Kruskal-Wallis検定
Mann-WhitneyのU検定

図3 食事アンケート結果

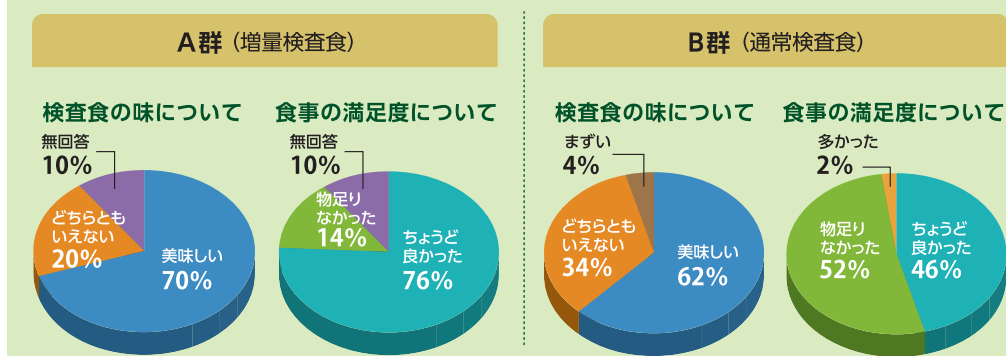
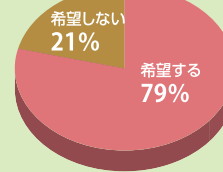


図4 次回検査食希望

(2回以上大腸内視鏡検査を経験している受診者に実施)

A群 (増量検査食)

回答者N=34名



結論

今回の結果から、「クリアスルーNB3食セット増量タイプ」を用いた腸管前処置は、検査をするのに十分な洗浄結果を得られ、かつ満足度も高いことが分かった。また、食事量には個人差があるため、受診者ごとに検査食の選択ができると検査前日のQOL向上が見込め、より満足度の高い前処置に繋がると言える。検査食の併用は、腸管内洗浄度評価結果、容認度の結果から、検査前日の食事としての利用価値が高いと考える。

●本症例のクリアスルーNB3食セット増量タイプ・JB3食セットは2021年9月に商品内容が変更されています。
【変更内容】NB3食セット増量タイプ:食塩相当量(7.5gから5.4g)
JB3食セット :食塩相当量(6.7gから4.5g)／間食(おろしりんご削除)

●発行:メディバンクス株式会社
●資料提供:キューピー株式会社